

代すでに栽培が行なわれていたかどうかは、しばらくおくにしても、古代人の生活の中にそれらが伴っていたことは重要な事実である。また地層別に出土種子類をみると縄文早期と前期との境、縄文時代と弥生時代以降とにおいて出土種類に画期的変化が認められる。いづれにしても、本遺跡の周辺は人間営力に関係した植生で囲まれていたと推定できる。

この縄文前期(6500年前)にヒョウタン、リョク豆、エゴマ、シソなどが大陸から文化要素として渡来したもののならば徳斗賢氏が“火田民を訪ねて”に、朝鮮の火田も日本の焼畑も源は一つで、その故郷は長江流域から江南地方とみられているが(地理22(8)60-66頁,1977), これらと考え合せて筆者はこの4作物も南方起源と推定されているので、後の縄文晩期末(夜臼式、2400年前)の福岡市板付遺跡地層からは炭化米、コナギはじめ水田雑草が15種、畑雑草は2,3種なので水稲田跡と推定され、同時に整備された木棚のある用水路が検出されている。

また同期初頭(山の寺式2500年前)の唐津市菜畑遺跡からはやや多い籾軸と多数の畑雑草種子および少数の炭化アワ、アズキ・シソ、未炭化メロン(雑草)が同時に出土した。その下層から焼かれた湿生アリノトウグサ種子が多数出土からみて山塵の焼畑と棚田農耕の両方が考えられ、上層(夜臼と板付工式混層2300年前)には多数のコナギ、タガラシ、水中(水田)植物が加わるので湿田稲作と認められる。それら稲・畑作物はともに南方原産なので、江南地方から北九州へ直接または大陸東海岸を山東半島まで北上後に朝鮮半島中南部を経由した間接渡来と考えられている。さて、それら稲や雑穀農耕よりさらに4000年以前にさかのぼる古代縄文前期にやはり江南から対馬海流によって日本海若狭湾の鳥浜貝塚周辺の採集経済を主とする人達の中に、この栽培型のヒョウタン、リョクトウ、エゴマ、シソなどが渡来していたと出土種子の同定から推定できるのである。

## ウォーター・クロバー

齊藤吉永

第4回水草研究会の全国集会在岡山県倉敷市で開催され、始めて見学会も行われた。

地元の方々の絶大な御協力と西原礼之助、沖陽子、小島裕子三氏の献身的なお力添えで素晴らしい大会に終始して成果も大きかった。

岡山市郊外の百間川の河川敷ではゴマノハグサ科の帰化植物ウキアゼナ *Bacopa rotundifolia* (Michx.) Wettst. や特にデンジソウ *Marsilea quadrifolia* L. (デンジソウ科)、それに僅か2~3株であったがサンショウモ *Salvinia natans* (L.) All. (サンショウモ科) もあって皆を喜ばせた。

私も標本用に若干のウキアゼナとデンジソウを採集したが、その折りに誰れだったか、ウォーター・クロバーというのがありますねと話しかけてくれた。

熱帯魚用の水槽に植えられるウォーター・クロバーは外国産のデンジソウの1種でこれは日本産のウォーター・クロバーだねと冗談を言って笑ったが帰宅後調べて見るとデンジソウの仲間は世界で約65種が知られていて日本にもデンジソウと沖縄以南から台湾にかけて分布するナンゴクデンジソウ *M. crenata* Pr. があり、熱帯魚を扱う店では次のような種類が輸入されているという。

1. オーストラリアに分布  
*M. drummondii* A. Brrun  
*M. hirsuta* Robert Brown  
(オーストラリアン・フォアリーブドゥ・クロバーと呼ばれている種類)
2. 主としてヨーロッパに分布  
*M. strigosa* Willdenow  
*M. pubescens* Tenore
3. インド、インドネシア、フィリピンに分布  
*M. crenata* Presl
4. 北アメリカに分布  
*M. macropoda* Engelm.  
*M. uncinata* A. Br.  
*M. vestita* Hook. et Grev.  
*M. polycarpa* Hook. et Grev.
5. 熱帯アフリカに分布  
*M. deffusa* Lepr.
6. 南米ブラジルに分布  
*M. defexa* A. Br.

尚ウォーター・クロバーとは上記のものではなくてオーストラリア産の栽培品種であろうとの見方もあってははっきりしない。

日本に産するデンジソウは広く北アメリカ・ヨーロッパ・アジアに分布するので案外外地産のものが輸入されて販売されているかも知れない。

ともかくウォーター・クロバーとは如何なる種を指すものか諸氏の御教示をお願いする。(1982.8.18)